

## 第2回予算審査特別委員会会議録

- 1 開会日時 令和元年12月13日（金）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和元年12月13日（金）午前10時36分
- 3 会議場所 議会協議会室
- 4 出席委員
  - 1 番 永徳 省二君
  - 2 番 大森 進次君
  - 3 番 佐藤 武君
  - 4 番 佐々木雄司君
  - 5 番 光成 良充君
  - 6 番 保田 守君
  - 7 番 大口 浩志君
  - 8 番 治徳 義明君
  - 9 番 原田 素代君
  - 10 番 行本 恭庸君
  - 11 番 松田 勲君
  - 12 番 北川 勝義君
  - 13 番 福木 京子君
  - 15 番 岡崎 達義君
  - 16 番 下山 哲司君
  - 17 番 実盛 祥五君
  - 18 番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
  - 14 番 佐藤 武文君
- 6 説明のために出席した者
  - 市長 友實 武則君
  - 副市長 前田 正之君
  - 副市長 川島 明昌君
  - 教育長 内田 恵子君
  - 総合政策部長 安田 良一君
  - 総務部長 塩見 誠君
  - 財務部長兼  
会計管理者 藤原 義昭君
  - 市民生活部長 作本 直美君
  - 保健福祉部長 入矢五和夫君
  - 産業振興部長 有馬 唯常君
  - 建設事業部長 杉原 洋二君
  - 赤坂支所長 土井 常男君
  - 熊山支所長 矢部 恭英君
  - 吉井支所長 是松 誠君
  - 消防長 井元 官史君
  - 教育次長 末本 勝則君
- 7 事務局職員出席者
  - 議会事務局長 元宗 昭二君
  - 副参事 社 清仁君
- 8 審査又は調査事件について
  - 1) 議第87号 令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（大口浩志君） ただいまから予算審査特別委員会を開会いたします。

佐藤武文委員より欠席の届け出がありましたので、御報告いたします。

初めに、友實市長より挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、おはようございます。

本日は12月ということで、年の瀬押し迫っての御多忙の中、予算審査特別委員会をお開きいただきましてまことにありがとうございます。

本日、御審査いただくものにつきましては、それぞれ分科会で御報告、御説明をさせていただいた12月定例市議会へ上程させていただいております補正予算及び債務負担行為等についての御審査をいただくことになろうかと思っております。よろしく御審査をお願いしたいと思います。

そして、この特別委員会、議員の皆様もそうですけれども、我々執行部においても初めての経験でございます。ぎこちないところがあるかもしれませんが、特に御容赦いただいて、しっかりと議論ができるようお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○委員長（大口浩志君） ありがとうございます。

それでは、これから委員会の審査に入ります。

当委員会に付託された案件は、議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）でございます。付託案件については、各分科会に分担し、付託事件審査または調査が行われ、各分科会委員長報告が提出されておりますので、分科会開催順に従いまして各委員長報告を求めます。

初めに、総務文教分科会の委員長報告を行います。

正副委員長は移動してください。

それでは、委員長報告を求めます。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 予算審査特別委員会の総務文教分科会の委員長報告を行いたいと思います。

予算審査特別委員会総務文教分科会に分担されました予算案1件について、12月6日、総務文教分科会を開催し、慎重に審査をいたしました。その経過の主なものについて報告したいと思います。

議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）のうち、総務文教常任委員会所管部分について。

委員より、職員人件費2,182万円のうち、人事院勧告分は幾らかとの質疑に、執行部は、

123万6,000円であるとの答弁。

委員より、賦課徴収費の過年度還付金300万円について、この金額では足りないというような経済状況だと聞かすが、どう考えているのかとの質疑に、執行部は、過年度還付金については実際のところ見込みが立たず、過去3年間程度を振り返って、同時期にどのくらいの金額であったかという積算しかない。今回は前年度並みで300万円計上しているが、市内製造業を中心に減益となっており、場合によっては今後補正または予備費で計上する可能性もあるとの答弁。

委員より、債務負担行為の東京オリンピック聖火リレー事業費902万8,000円について詳細説明をとの質疑に、執行部は、約2キロの交通規制に係る警備員約50名と資材、ミニセレブレーション等の経費である。また、小学5年生から中学3年生までの児童・生徒に沿道で応援してもらいたいと考えており、児童・生徒の移動に係るバス約30台分の経費であるとの答弁。

委員より、事業費は全て単市負担なのかとの質疑に、執行部は、県から400万円を限度に補助があるとの答弁。

委員より、残りは単市負担となるのかとの質疑に、執行部は、そのとおりであるとの答弁。

委員より、国からの補助はないのかとの質疑に、執行部は、現在のところはないとの答弁。

委員より、教育総務費の特別支援学級の増について、どのくらいの教員の増員を予定しているのかとの質疑に、執行部は、学級増に合わせて県から1学級につき1人の教員が派遣されるとの答弁。

委員より、1クラスの児童・生徒数は3から4人程度かとの質疑に、執行部は、クラスによってさまざまである。県の決まりでは最大8人となっているが、1つのクラスに1年生から6年生まで入るのは大変なため、低学年と高学年に分けるなどクラスの人数を変えている状況であるとの答弁。

委員より、特別支援学級の教員だけでなく、指導員を置くことについては考えていないのかとの質疑に、執行部は、基本的に支援学級には県からの教員が1人つくが、状況に合わせて特別に支援が必要になれば県に要望したり、緊急を要する場合は市費で対応する可能性もあるとの答弁。

委員より、中央学校給食センターの調理等業務委託についてプロポーザルで提案してもらうということだが、不具合が発生した場合の対処方法を検討するように取り組んでもらいたい。どう考えているのかの質疑に、執行部は、仕様書の中で対処方法を盛り込んで、補償をしっかりとすることを提案してもらうように検討しているとの答弁。

委員より、業務委託の内容について、以前の説明と変わったところがあるのかとの質疑に、執行部は、変わったところはないとの答弁。

他に質疑はなく、審査を終了いたしました。

以上をもちまして予算審査特別委員会総務文教分科会委員長報告を終わります。

以上です。

○委員長（大口浩志君） 総務文教分科会委員長報告が終わりました。

これから総務文教分科会委員長報告に対する質疑を行います。

質疑ございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 原田委員。

○委員（原田素代君） まず、聖火リレーの事業費のことをお尋ねするんですが、総額902万円ということですが、質問に対して警備員やミニセレブレーション、それから児童・生徒の移動のバスとありますが、これの明細を教えてください。

それから、もう1つあります。下のほうに特別支援学級のことがあるのですが、これは要するに1クラスに対して県からの支援員が1人という、指導員は1人ということですが、結果として今、赤磐市は何クラスにしている、何人の県からの支援学級の教員を配置をすることになるのか、それがわかっているならば教えてください。

○委員長（大口浩志君） 答弁を求めます。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） まずもって債務負担行為の東京オリンピック聖火リレーの事業費902万8,000円についてですが、先ほど委員長報告したように、お金がかかり過ぎるんじゃないかというような質問がありまして、その中で説明は先ほど申しました交通規制に係る警備員50名、資材、ポールコーンとか、ミニセレブレーションをする経費、それから小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒を沿道で応援してもらうために送迎するバス30台分の経費であるとの報告を受けてます。それ以上のことはありませんでした。

それから、次の特別支援学級なんですけど、特別支援学級につきましては、先ほど報告しました1クラスが県では8人なんですけど、最大が8人なんですけど、3人から4人まででやるとか、それから中には1年生から6年生まで低学年と高学年があるんで、分けてやっていかなければいけないということになっております。それから、クラスには1クラスにつき1人、県から職員が、先生が来るということで、必要に応じては指導員を頼まなきゃいけないときには県費に要望してもらうか、ないときは市費のほうでやらせていただくというような答えでございました。

それから、先ほど支援学級が何ぼあるかというのは、そのところはちょっと詳しくできておりませんでした。今、普通学級が1教室の増と、それから特別支援学級が7教室の増ということで、山陽小学校、山陽西小学校、山陽東小学校、軽部小学校、豊田小学校、各1教室の増、そして中学校が桜が丘中学校が2教室の増ということで、出ているということです。

以上です。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 聖火リレーのほうは、明細は議論にならなかったということでわかりました。

それから、7教室の増ということは、従前よりもプラス7教室ふえたというふうに理解したらいいんでしょうか。都合、要するに何クラスで、県から何人来るんでしょうか。

○委員長（大口浩志君） 答弁を求めます。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 先ほど申しましたように、原田委員の言われるように、7教室の増ということでございます。それから、今現在は何クラスの特別支援学級があるかというのは、その委員会では出ておりません。

○委員（原田素代君） はい、結構です。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 今の特別支援学級で7なんですけど、このクラス増についての学校の状況という、その辺は議論はなかったんですか。例えば、ここは桜が丘小学校は出てないけど、あそこを以前見に行ったときに、教室がもう満杯で、職員室も大変で、増築をされてるんですけど、そういう状況というのがこの東とか、そういう状況は、このクラスがふえて、状況というのは議論されなかったんですか。

○委員長（大口浩志君） 答弁を求めます。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） そのようなことは審査いたしませんでした。質問はありませんでした。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 審査をぜひしていただきたいと思うんですが、もう1つ、中央学校給食センターのことで議論が余りされてないんですが、今回業務委託が初めて1億5,000万円が出たんで、もう少し議論をされとるかなと思ったんですが、そうでもないんですけれども、この3年間の1億5,000万円、それで大体1年に5,000万円ぐらいな直営のときの金額だというふうなことだろうと思うんですが、その辺についてのもうちょっと突っ込んだ議論はなかったんでしょうか。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 先ほども報告をしておりますように、学校給食センターの中央学校給食センターの調理業務委託等については、プロポーザルで提案してもらうということで先ほど申し上げた、不都合が起きた場合の対応は補償してもらうとか、仕様書の中で書いておるといようなことが出ただけでございます。

それから、委員から、前々から説明しとる委託内容については、内容が変わったのかというて、変わってないというような答弁でございました。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 福木委員。

○委員（福木京子君） もうそれ以上の議論はなかったんでしょうか。この3年間で1年に5,000万円、それで3年間ですね。それで、その直営でやる場合と、ここ一部民営化されたときの3年間の変化とか、何かそんな議論はなかったんですか。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 福木委員も傍聴されとったんでよくわかると思うんですけど、それ以外のことはありませんでした。

それから、私が個人的に思うのは、委員長として思うんですけど、これはやり方としていろいろ新しいことを試していくということで、予算と委員会とを分離したということで、予算上のことを聞くということで、なかなか内容的には深く入っていきなかつた。前の委員会のようなことであつたら、この予算はどうなったんで、これについてはどうならという、先ほど福木委員が言われたようなことの話も出てきとったと思うんですけど、一応今のところでは、この間やった初めての経験ですけど、分科会ではこのようなことだけの返答でございました。

以上です。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 今ちょっと個人的な答弁だつて言われたんですけど、それは予算に関してはもっと突っ込んだ議論ができるんじゃないかと思いますが。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 福木委員、何遍言われても、あなたは傍聴しょうられて、そこでやったのが委員会の分科会の中では、どうなるんならというたら、聞かれたことを今先ほど言うた

プロポーザルを提案していきますと、不都合が生じた場合どうするんならというたら、対処法を検討するように取り組んで、仕様書とかをしておりますとか、補償をやりますということでお答えがあったんです。

それからもう1つは、委員が、業務内容については以前と説明しとんのが変わったかと、変わっておりませんということで、それ以上のことはありません。

私が今言いたかったのは、予算をするということで、これは初めてなことで、これもよく検討してくれとって、予算をするときには内容までずっとやってくださいということじゃったから、またできたかもしれないんですけど、内容ではなく予算上のことをやるのが主だったので、このようなことで委員会のほうでは委員会のことが出ました。委員会ではお話ししておりますから、そういうことでございますので、御了承願いたいと思います。

○委員（原田素代君） 委員長、ちょっといいですか。

○委員長（大口浩志君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 予算をトータルで、市の予算としてトータルで議論するメリットがあるから予算委員会をつくられたわけで、分科会で審査された結果の議論で、中まで議論ができないとなると、ここで議論ができると理解していいんですか。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） ちょっとお待ちください。

予算委員会のあり方を今ここで討論する場ではございませんので。

○委員（原田素代君） いいですか。

○委員長（大口浩志君） はい、どうぞ。

○委員（原田素代君） あり方を討論するんじゃなくて、例えば今、福木委員が質問されていて、要するに委員会としては……。

○委員長（大口浩志君） 委員会ですから。

○委員（原田素代君） これ以上できないということになるのであれば、せっかく全体で集まって執行部も同席してるんだから、ここで質疑をさらに深めることっていうのができないと、予算委員会の意味がないじゃないですか。

○委員長（大口浩志君） 済いません。予算委員会のありようをここで今議論するようにはなっておりませんので。

○委員（原田素代君） じゃあ、このままいくんですかってこと。

○委員（北川勝義君） 委員長、よろしいか。

○委員長（大口浩志君） ちょっと待ってください。

暫時休憩します。

午前10時16分 休憩

午前10時23分 再開

○委員長（大口浩志君） 再開します。

ほかに質疑はございませんか。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） オリンピック関係のお尋ねをさせていただきたいと思うんですが、非常に夢のある取り組みで、私はもうぜひこれは頑張ってやっていただきたいなあというふうに思っているんですが、その中で2キロ、交通規制に係る警備員ということで2キロを交通規制をかけてやるということなんですけども、この募集状況みたいなものについての質疑っていうのは、この中でなかったでしょうか。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 先ほど報告しましたように、債務負担行為の中で902万8,000円がついとるということで、これは委員のほうから前に言ようたんが100万円か何ぼ、正式な金額は忘れましたけど、ちょっと多いんじゃないかということが出て、それで内容を説明してくださいということと言いましたら、先ほどお答えしたように2キロの交通規制の警備員とか、それからポールを置くとか、それからミニセレブレーションをするとか、あと小学校の子と中学生を……。

児童・生徒の移動に、ちょっと待ってくれよ、おめえ、ちょっと待つて。移動で、それからバスを約30台頼むということだけのことで、それ以上の。それから、今言わりようるけど、場所のこともどこじゃというのは、この辺を走るというのは何かパンフレットみたいなのはありましたけど、委員会のほうではどこを走るというて、どのルートがどうなるというのも正式にまだ全然聞いておりませんし、質問も出ませんでした。

○委員長（大口浩志君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） ありがとうございます。

もう1回確認なんですけども、902万8,000円について県の負担と国の負担の確認をさせていただいて、市の負担、市のやるべきことというものの確認をさせていただいてることぐらいで、そのほか関係する募集の状況だとか、どこでセレブレーションをするのかとかというようなお話というのは、そこまでこの中では議論がなかったということでしょうか。

○委員（北川勝義君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 北川委員長。

○委員（北川勝義君） 佐々木委員の言われようとおりで、やるということはええことで、僕らもええことじゃなということ、場所はちょっとパンフレットみてえな薄いのは昔もろうたことがあるんですけど、それ以上のことは詳しくわからんで、これも我々が思うた債務負担行為の中で、執行部のほうが債務負担行為なんで、後日いろいろなことは説明させていただき



たいというような考えを言われたんで、それから言われたのも予算上のことも先ほど申しましたように予算が400万円を上限で、県から400万円以内をいただけると。あとのじゃから約500万円ですね、500万円については国は出んのんかというたら、国は出ませんということで、そういうお話で、あと単市で500万円を出すということの報告を受けております。詳しいことは先ほど申しました、後日のことで債務負担行為なんで、報告させていただきますということでした。

以上です。

○委員長（大口浩志君） よろしいか。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） ないようですので、これで総務文教分科会委員長報告に対する質疑を終わります。

正副委員長は自席にお戻りください。

続きまして、厚生分科会の委員長報告を行います。

正副委員長は移動してください。

それでは、委員長報告を求めます。

○委員（光成良充君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 光成委員長。

○委員（光成良充君） 予算審査特別委員会厚生分科会委員長報告を行います。

予算審査特別委員会厚生分科会に分担されました予算案1件について、12月9日、厚生分科会を開催し、慎重に審査いたしました。その経過の主なものについて御報告いたします。

議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）のうち、厚生常任委員会所管部分について。

委員より、障害者福祉費の委託料増額について、説明資料に利用者数の増に伴い増額とあるが、実際どのくらいふえたのかとの質疑に、執行部は、10月分までの実績額で当初予算の81%を消化している。9月分までの利用件数は昨年比べて74%増加しているとの答弁。

委員より、生活保護費の返還金について内容の説明をとの質疑に、執行部は、当初予算で100世帯108人を見込んでおり、実績は91世帯107人である。適用になったケースの家族状況、医療費等の関係で返還額1,572万9,000円が発生したとの答弁。

他に質疑はなく、審査を終了いたしました。

以上をもちまして予算審査特別委員会厚生分科会委員長報告を終わります。

○委員長（大口浩志君） 厚生分科会委員長報告が終わりました。

これから厚生分科会委員長報告に対する質疑を行います。

質疑ございませんか。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 生活保護の返還金についてお尋ねをしたいと思います。

傾向からいいましたら、前年度の生活保護の対象となる方、この方というのは大体何もなければ翌年度もそのまま継続されるようなケースが多いと思うんです。そういう中で100世帯108人を見込んでいて、91世帯107人ということの実績になった場合に、例えば99世帯107人だったらわかるんですよ。9世帯も減って1人減るっていうのは、ちょっとその増加減が物すごく複雑だなというふうに思っているんですが、そこら辺の説明というものは執行部のほうからなかったんでしょうか。

○委員（光成良充君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 光成委員長。

○委員（光成良充君） 佐々木委員の質疑に対してのお答えなんですけれども、ここに出ている100世帯108人で、実績が91世帯107人ということだけで、これ以外の議論というのか、その内容についての話は一切しておりません。

○委員（佐々木雄司君） わかりました。ありがとうございます。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

ないようですので。

○委員（行本恭庸君） ある。

○委員長（大口浩志君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 今の佐々木委員と同じ質問ですけど、件数的に合わないものを何でこういうことになるのか、その説明を聞く必要があるんじゃないか、逆に言うたら。金額が減ったのはわかるで。100世帯108人で、そうじゃろう、91じゃ9世帯減って、1人しか減ってねえということじゃろ。ほんなら、途中でそのメンバーがかわったということか、中身が。大幅に変わった、そんなことでほんなら予算組んで、ほんなら支払いするのもちろんとその正当性があるって払うとるかどうかというのがわからんじゃねえか。

○委員（光成良充君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 光成委員長。

○委員（光成良充君） 行本委員の質疑に対してなんですが、実際100世帯108人で、91世帯107人ということで、世帯数の数に対しての人数の減りが違うっていうお話だと思うんですけども、この部分については世帯が変わったということと、それからその世帯の人数かとの関係があるっていうのは、以前には話は聞いておりますが、この会ではその話をしておりませんので、申しわけないですがお答えができません。

○委員（行本恭庸君） ほんなら聞いてもしょうがねえ、もうええわ。

○委員長（大口浩志君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） なければ、厚生分科会委員長報告に対する質疑を終わります。

正副委員長は自席にお戻りください。

産業建設分科会は分担案件がなかったため、開催されておられません。

これで議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）の質疑を終了いたします。

それでは、ただいまから本委員会に付託されました議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）について採決をしたいと思います。

議第87号令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は御起立願います。

〔賛成者起立〕

○委員長（大口浩志君） 起立多数です。したがって、議第87号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で当委員会に付託された案件の審査はこれで全て終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 原田委員。

○委員（原田素代君） この間の傾向は、どうも省略する傾向が多いんですが、きちんと質疑のことは全てフォローした報告をしていただきたいをお願いします。

○委員長（大口浩志君） 暫時休憩します。

午前10時34分 休憩

午前10時34分 再開

○委員長（大口浩志君） 再開します。

それでは、御要望として受け取っておきます。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（大口浩志君） それでは、一任ということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大口浩志君） それでは、そのようにさせていただきます。

以上をもちまして予算審査特別委員会を閉会したいと思います。

閉会に当たりまして、前田副市長より挨拶をお願いいたします。

○副市長（前田正之君） 委員長。

○委員長（大口浩志君） 前田副市長。

○副市長（前田正之君） 本日は、予算審査特別委員会に際しまして、12月6日は総務文教の

分科会、12月9日には厚生学分科会で慎重に御審査いただきました。それを経まして、本日慎重に御審査をいただきましたことにお礼を申し上げたいと思います。

令和元年12月もあと残すところとなりましたが、12月18日の最終の御審議をよろしく願いいたしますということを含めまして、本日の閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。よろしく願いいたします。

○委員長（大口浩志君） ありがとうございました。

これで予算審査特別委員会を閉会いたします。

皆さん、大変お疲れさまでございました。

午前10時36分 閉会